

最高裁秘書第1177号

令和7年4月4日

山 中 理 司 様

情報公開・個人情報保護審査委員会委員長

答申書の写しについて（送付）

下記の諮問については、令和7年3月28日に答申（令和6年度（情）答申第46号）をしたので、答申書の写しを送付します。

記

諮問番号 令和6年度（情）諮問第29号

（担当）秘書課文書開示第一係 電話03（4233）5249（直通）

諮問日：令和6年10月3日（令和6年度（情）諮問第29号）

答申日：令和7年3月28日（令和6年度（情）答申第46号）

件 名：大阪地方裁判所における弁護士会に対して特定の民事部の判決書を開示した際の連絡文書の不開示判断（不存在）に関する件

答 申 書

第1 委員会の結論

大阪地裁が、大阪弁護士会に対し、大阪地裁第15民事部（交通部）の判決書（全件）を開示した際の連絡文書（最新版）（以下「本件開示申出文書」という。）の開示の申出に対し、大阪地方裁判所長が、本件開示申出文書は、作成し、又は取得していないとして不開示とした判断（以下「原判断」という。）は、妥当である。

第2 事案の概要

本件は、苦情申出人からの裁判所の保有する司法行政文書の開示に関する事務の取扱要綱（以下「取扱要綱」という。）記第2に定める開示の申出に対し、大阪地方裁判所長が令和6年8月22日付けで原判断を行ったところ、取扱要綱記第11の1に定める苦情が申し出られ、取扱要綱記第11の3に定める諮問がされたものである。

第3 苦情申出人の主張の要旨

本件開示申出文書が本当に存在しないかどうか不明であるから、この点を最高裁に改めて確かめてもらうために苦情の申出をする。

第4 最高裁判所事務総長の説明の要旨

- 1 大阪地方裁判所において、本件開示申出文書を探索したところ、本件開示申出文書に該当するような文書は存在しなかった。
- 2 これに対し、苦情申出人は、本件開示申出文書が本当に存在しないか不明であると述べるが、裁判所が弁護士会に対して判決書写しを交付するに当たり、本件開示申出文書を作成することは必要的とはいえず、大阪地方裁判所が本件

開示申出文書を作成又は取得していないことに不合理な点はない。

第5 調査審議の経過

当委員会は、本件諮問について、以下のとおり調査審議を行った。

- ① 令和6年10月3日 諮問の受理
- ② 同日 最高裁判所事務総長から理由説明書を収受
- ③ 令和7年2月28日 審議
- ④ 同年3月21日 審議

第6 委員会の判断の理由

- 1 最高裁判所事務総長は、裁判所が弁護士会に対して判決書写しを交付するに当たり、本件開示申出文書を作成することが必要とはいえない旨説明しているが、この説明に特段不合理な点はない。そうであるとすれば、大阪地方裁判所が本件開示申出文書を作成し、又は取得していないとしても不自然ではない。他に、大阪地方裁判所が本件開示申出文書を保有していることをうかがわせる事情も特段認められない。
- 2 以上のとおり、原判断については、大阪地方裁判所において本件開示申出文書を保有していないと認められるから、妥当であると判断した。

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高 橋 滋

委員 長 戸 雅 子

委員 川 神 裕